

# TGR TEAM ZENT CERUMO

## 2022 AUTOBACS SUPER GT Report

MOTEGI GT 300km RACE GRAND FINAL

第8戦 モビリティリゾートもてぎ

## ZENT CERUMO GR Supra

#38 立川祐路／石浦宏明

◆11月6日（日） RACE

決勝結果 10位

ブリヂストンを履く GR Supra 勢全体が思わぬ不調に見舞われ、悔しい公式予選となった 11 月 5 日（土）から一夜明け、SUPER GT 第 8 戦は決勝日を迎えた。今シーズンを締めくくる 300km レースだけに、なんとか状況を打開したい。TGR TEAM ZENT CERUMO は決勝レースを前に ZENT CERUMO GR Supra に大きなセットアップ変更を施し臨んだ。



2万6000人という多くのファンがスタンドを埋め、爽やかな秋空が広がるなか、通常のレースより早い午後1時から迎えた決勝レース。1周のパレードラップ、さらに1周のフォーメーションラップに続きスタートした決勝で、ZENT CERUMO GR Supra のスタートドライバーを務めたのは立川だ。前日の思わぬ不調から少しでもポジションを上げるべく、63周の決勝に臨んだ。



ただ、大幅なセットアップ変更が、ZENT CERUMO GR Supra のフィーリングを前日までと異なるものにしていった。スタート直後、「ブレーキングが苦しかった」という立川は 13 番手からふたつポジションを下げる。ただ直後、1周目の5コーナーで上位争いのなかで接触があり、#8 NSX-GT が後退。立川は 14 番手につける。序盤から立川は上位集

ZENT

GR TOYOTA GAZOO Racing

BRIDGESTONE

PMU RACING PADS

ADVICS

HEISEI

Fosbury

WAKOS

SANKI SHOKAI Co.,LTD

asics

JTCS

トヨタ東自大

SHIMADA RACING CLUB

Y&Y

# TGR TEAM ZENT CERUMO

団を追っていくが、そんななか9周目、3コーナーで多重アクシデントが起きた。

立川の3ポジション前を走っていた#36 GR Supra が GT300 車両と接触。スピン状態に陥った GT300 車両に、10 番手だった #24 Z GT500、12 番手だった #39 GR Supra がヒットし、さらにもう 1 台の GT300 車両も巻き込み、4 台がクラッシュしてしまったのだ。すぐ後方にいた立川の目の前で起きたアクシデントだった。



「本当にあれは危なかった」という立川は、外側に#8 NSX-GT がいるなか、避けるルートを瞬時に探し出す。なんとか外側に#8 NSX-GT が避けてくれたおかげで、グラベルに出るギリギリまで外に寄りながらもクラッシュ車両を避けることに成功した。「かわすのがいっぱいいっばいで、あれで遅れてしまった」と #8 NSX-GT に先行を許したものの、このアクシデント、さらにメインストレート上で起きたアクシデントのため21周までコース上に留まったセーフティカーランの後、ふたたび前を追っていった。

ほぼ同じタイミングでチャンピオンを争っていた#3 Z GT500 がペナルティで後退したこともあり、立川は 11 番手につける。ただセットアップ変更によるペースの苦しさが目立ち、なかなか順位を上げる可能性が見えづらかった。後半ステイントでの打開を目指すべく、チームはミニマムでのピットインを選択。22 周を終え ZENT CERUMO GR Supra のステアリングを石浦宏明に託した。

前半の立川とは異なる硬めのタイヤを履いた石浦は、コースイン後ウォームアップに苦しみ、同時にピットインした#8 NSX-GT にやや離されたものの、その後ペースが上がり始める。39 周目には#16 NSX-GT を先頭にする#37 GR Supra、#8 NSX-GT の 8 番手争いの集団に追いつくことに成功。39 周目、#8 NSX-GT をかわすことに成功し、さらに#37 GR Supra に先行された#16 NSX-GT とテール・トゥ・ノーズのバトルを仕掛けていった。

ZENT

GR TOYOTA GAZOO Racing

BRIDGESTONE

PMU RACING PADS

ADVICS

HEISEI

Fosbury

WAKOS

SANKI SHOKAI Co., LTD

asics

JMS

トヨタ東自大

SHIMADA RACING CLUB

ZENT

# TGR TEAM ZENT CERUMO



ただ「ブレーキであまり勝負ができなかった」と#16 NSX-GT をかわすのに時間がかかってしまった石浦には、ふたたび#8 NSX-GT が迫ってくる。レースは終盤を迎え、気温が下がるこの時期に発生しやすいピックアップの症状も発生。53 周目、#8 NSX-GT に先行を許してしまった。

しかし、石浦は最後までしっかりとレースを戦い抜き、最後は 10 位でフィニッシュすることになった。今季 3 回目のポイント獲得で、この 1 点でランキングがひとつ上がり、13 位でシーズンを終えることになった。

とはいえ、TGR TEAM ZENT CERUMO がシーズン開幕前に想定したランキングではない。今季、チームは田中耕太郎監督が言う「弱さ」をみせるシーズンとなってしまった。来季、目指すはもちろん捲土重来の一年だ。今オフ、TGR TEAM ZENT CERUMO は来季を見据え準備を進めていく。

## ドライバー／立川祐路

「前日から大きくセットアップを変更し臨みましたが、正直序盤はそれが裏目に出てしまいました。ブレーキングが良くなく、順位を落とすことになってしまいました。ペースとしても厳しく、僕のスティントは悔しいものになってしまいましたね。3 コーナーでのアクシデントはなんとか避けることができましたが、後半の石浦選手になんとか繋ごうと思いました。今日はみんながミスなく戦ってくれましたが、速さという面ではまったく足りませんでした。今後しっかりと見直し、しっかりと力をつけていきたいと思います。今回も難しいレースとなりましたが、来年は期待に応えられる 38 号車として戻ってきたいと思っています。一年間ご声援ありがとうございました」

## ドライバー／石浦宏明

「序盤の立川選手のスティントを見ていても、大がかりなセットアップ変更への合わせ込みが難しく、辛いスティントになっていると分かりました。自分に

ZENT

GR TOYOTA  
GAZOO  
Racing

BRIDGESTONE

PMU  
RACING PADS

ADVICS

HEISEI

Fosbury

WAKOS

SANKI SHOKAI Co., LTD

asics

JMS

トヨタ東自大

SHIMADA

Y&Y

# TGR TEAM ZENT CERUMO

交代する際に硬めのタイヤを履くことになっていたのですが、そこで状況の打開を目指しましたが、途中ペースが良い時間があり、そこで#8 NSX-GT をかわすことができました。ただその後はブレーキであまり勝負ができず、抜くのに時間がかかったことで、前とのギャップが広がってしまいました。ステイント後半はピックアップ等もありペースが上げられず、難しいレースとなりました。ただ今回のセットアップ変更のチャレンジも、来季以降に繋がると思います。今季期待に応えられず悔しい思いですが、結果を出せるよう、来季に向けて頑張っていきたいと思います」

## 田中耕太郎監督

「最低限完走を果たすことができました。やっと完走したことで見えたこともたくさんありますし、今まではその見えるところまでも到達していなかった。私としてもすごくいろいろなことが見えましてし、チーム全体がさまざまなことを見出し、検証し、今後より良くしていかないといけないと思います。今季、初めて監督を務めさせていただきましたが、チームの弱さが見えたシーズンとなってしまいました。来季に向けてもっとこうすべき、ということチーム全体で積み上げていかなければいけないと思っています」



ZENT

GR TOYOTA GAZOO Racing

BRIDGESTONE

PMU RACING PADS

ADVICS

HEISEI

Fosbury

WAKOS

SANKI SHOKAI Co.,LTD

asics

JMS

トヨタ東自大

SHIMADA RACING CLUB

ZENT

# TGR TEAM ZENT CERUMO



# TGR TEAM ZENT CERUMO

## 決勝結果

Rank	Car No.	CarName	Lap	Diff
1	100	STANLEY NSX-GT	63	
2	12	CALSONIC IMPUL Z	63	1.212
3	14	ENEOS X PRIME GR Supra	63	1.888
4	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z	63	2.795
5	17	Astemo NSX-GT	63	16.005
6	37	KeePer TOM'S GR Supra	63	26.476
7	19	WedsSport ADVAN GR Supra	63	33.939
8	8	ARTA NSX-GT	63	40.295
9	36	au TOM'S GR Supra	63	45.265
<b>10</b>	<b>38</b>	<b>ZENT CERUMO GR Supra</b>	<b>63</b>	<b>50.036</b>
11	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	63	1'11.201
12	64	Modulo NSX-GT	63	1'12.783
13	23	MOTUL AUTECH Z	60	3LAP
	24	REALIZE CORPORATION ADVAN Z	8	52LAP
	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	8	0.524

ZENT

GR TOYOTA  
GAZOO  
Racing

BRIDGESTONE

PMU  
RACING PADS

ADVICS

HEISEL

Pasbury

WAKOS

SANKI SHOKAI Co.,LTD

asics

JMPS

トヨタ東自大

SHIMADA

Y&Y

# TGR TEAM ZENT CERUMO

2022年ポイントランキング

Rank	Car No.	CarName	Point
1	12	CALSONIC IMPUL Z	70.5
2	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z	66
3	100	STANLEY NSX-GT	62
4	17	Astemo NSX-GT	60
5	14	ENEOS X PRIME GR Supra	49
6	37	KeePer TOM'S GR Supra	43
7	23	MOTUL AUTECH Z	37
8	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	33
9	24	REALIZE CORPORATION ADVAN Z	30.5
10	36	au TOM'S GR Supra	29.5
11	19	WedsSport ADVAN GR Supra	28.5
12	8	ARTA NSX-GT	24
<b>13</b>	<b>38</b>	<b>ZENT CERUMO GR Supra</b>	<b>17</b>
14	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	16.5
15	64	Modulo NSX-GT	4

ZENT

GR TOYOTA  
GAZOO  
Racing

BRIDGESTONE

PMU  
RACING PADS

ADVICS

HEISEL

Pasbury

WAKOS

SANKI SHOKAI Co.,LTD

asics

Sumitomo  
MITSUBISHI

トヨタ東自大

SHIMADA  
RACING CLUB

Q&Q